

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、高丘圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和5年3月3日（金）9時30分から11時10分まで
参加者	委員：17人 事務局：10人
場所	北部協働センター 第2・3講座室
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>(1)今年度の振り返り パワーポイントを使って、今年度の協議体での活動の振り返りをした。</p> <p>(2) グループワーク</p> <p>① 前回のグループワークのつづき「身近な人に認知症の疑いがあったら」</p> <p>② 「どんな“まち”が認知症の人にやさしいか」を考える</p> <p>Aグループ（葵、高丘）</p> <p>▼対応の難しさについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族も気づいているのか分からないため伝え方が難しい。 ・ 話す内容に配慮しながらコミュニケーションをとらないといけない。 相手と会話が成り立たないとき、傷つけないようにするにはどうしたら良いか。 →接し方がわからない ・ 認知症でも人前に立つとしっかりするような人もいる。普通に話していても認知症だとわからない人も多い。 <p>▼協議体で行う認知症支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員と自治会で認知症要支援者、独居の方のチェックリストを作成して共有しては。 ・ 一般的に認知症となったときにまずどこに相談したらいいか分からない人がほとんど。 →包括の役割を住民に周知する必要がある。 ・ 回覧板でPRしたらどうか。保存版であれば、継続的に見てもらえる。 ・ 好きなことを続けられる場所や仲間が必要。 <p>Bグループ（葵、高丘）</p> <p>▼身の回りの認知症の人について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 免許返納したことでストレスに。おかしい言動をとるようになってしまった方がいる。“用のない人”と思わせない“役割”を。仕事をつくってあげることが大事。 ・ ひとりで抱え込まない。無理すると共倒れになってしまう。協力者を見つけて活動する。

- ・認知症の人→カラオケに通うようになり、2ヶ月に2曲覚えるようにしている。趣味も兼ねて、脳への刺激にもなるため良い。
- ・金銭管理が難しくなった方がいる。亡くなった奥さんの携帯代金を3年間払い続けていたことがわかった。
- ・認知症の人との接触がないためピンとこない人も多い。

▼認知症にやさしいまちとは？自分ならどんなことをしてほしい？

- ・あいさつをしてくれるまち
- ・趣味を持つことでつながる。子どもたちとの時間を持てる。居場所がある。仲間がいる。
- ・料理（特技など）を提供して喜んでもらう人たちがいる。
- ・居場所と役割があることが大事。
- ・サポートしてくれる人が必要。それがあればこれからも自分の家で暮らし続けていけるかもしれない。
- ・家族のサポートができるといいが、周りが考えるニーズと家族のニーズは違う。

Cグループ（萩丘中）

▼身の回りの認知症の人について

- ・一人の人にいくつもの顔があったりする。他人の意見を聞かなくなる
- ・認知症の知識がないまま介護している状況が多くある。
- ・家族の人が外に知られたくないため、本人自身や家族が外出を制限してしまうことも。
- ・普段接していないとわからない。

▼地域で考える認知症の人への支援について

- ・医療につなげるのが困難。（診断から福祉サービスへつながる）
- 家族の理解と受容が必要。上手につなげてあげる。「一緒に行かない？」と誘う。他の病気で一時的な症状があった際に、一緒に見てもらおう。かかりつけ医から紹介してもらおう。事前にかかりつけ医と打ち合わせしておくことが大事。
- ・家の中で孤立してしまっている。
 - ・独居の方→人と話をしていないと進行してしまう。
 - ・身内のいうことは聞かない。他人からの方が良い場合も。
 - ・昔と比べて認知症に対する理解や認知度は上がっている。
 - ・家族が隠してしまうようなケースがある。→正しい理解が必要。
 - ・高齢者夫婦で夫が認知症。内職をしてもらっており、仕事をしている間は落ち着いて過ごしてられる。
- 役割や趣味を事前につくっておくことが大事。
- ・小学生に認知症サポートについて学んでもらう機会を。コミュニティスクールに組み込んでみては。

	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもってもらおう仕掛けづくりを→居場所づくり、ロコモ体操や脳トレ ・サロンに認知症予防プログラムを組み込む <p>(3) 全体共有 グループワークで話し合った内容について、各グループの代表者より発表した。</p> <p>4. 事務連絡 令和5年度第1回協議体会議開催日程（仮）：令和5年6月13日（火）9時30分～</p> <p>5. 閉会 生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>今回会議では、委員それぞれの「地域での認知症患者への支援」についての考えを聞くことを目的とし、グループワークを中心に会議を実施した。家族や友人、知人など身近な認知症の方の話を共有することで、我が事として認知症支援を考える良い刺激になった。昔と比べて「認知症」が世の中に浸透してきているものの、認知症についての相談先が分からなかったり家族だけで抱えてしまったりするケースが多くある。</p> <p>地域における認知症支援といっても、本人への支援、家族への支援、居場所づくり、情報の啓発、認知症予防など様々な支援が考えられるなか、今後協議体としてどこに焦点を当てていくか協議しながら具体的な認知症支援に取り組んでいきたい。</p>